

艘計町に入見れば呉服店、酒店、小間物屋、此外諸品の店ありて、物の自由なる事上方筋に替らず、御巡見使拜見に出し男女を見るに、縮緬の單へに、白あけの紋などを付、人物言語よくて、邊鄙の風俗なし、委しく聞くに、近郷越前より出店數多く、上方のもの多し、其上長崎の俵もの問屋、湊ゆへに上方の風俗にならひて、斯のごとしといふ、此度江戸を出しより、家居人物言語ともに揃ひてよき所は、此江指町と、松前の城下に及ぶ所更になし、奥羽は寒國にして、瓦よはきとて、瓦ぶきの家はなかりしに、此町には瓦ぶきの家も土藏もあり、いかゞの事にて、此所も寒強地に瓦を用ゐる事と思ひしに、何れも上方やきの倉入し瓦ゆへに、寒の強きにも損せずといふ、又家々に圖略のごとき玄關付なり、小家といへども所の習ひにや、相應の唐破風作りにしてあり、土藏も圖のごとく檜板檼板にて包廻して、奇麗に見ゆる饒なるゆへ、おのゝ美を飾る風と見へ侍りしなり、世にいふ松前の地にては、昆布にて家根をふきし所もあると云、甚あしき地のやうに風聞もせしが、人物言語も日本を離れし所にて、日本の地よりしては大ひに劣りし事と人思ひし事なりしに、かゝるよき町あらんとは思ひよらず、見るものごとにあきれし事也、是等を以て天地の間至らざる地は計るべからず、所の風にて傾城とも女郎とも云ずして、遊女の總名をいふに、雁の字といふなり、小童に至るまで雁の字と稱して、おやまの女郎の遊女など、はいはぬなり、予^古河^辰つくつく、考へ見るに、此地に右のごときの繁昌なる町ある事、至て不審なる事なり、其上海上濱の辻々は、御巡見使拜見に出る人、所不相應に大人數にて、又江指町に雪踏下駄計を賣見せあり、何方より買用ゆる事にて、商ひのたよりとせる事にや、合點ゆかず、是らの事に心を付て見れば、御巡見使御通行なき所にも、村里のある事にや、くれぐれも不審少からず、

〔西蝦夷日誌 五編〕サツホロはサツテホロの儀にて、多く乾くの儀、此川急にして干安き故也、

〔西蝦夷日誌 五編 凡例〕一文化度近藤守重が獻策に、津石狩に大府を置んことを書れしが、故余^武松浦^四郎